

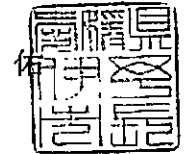


伊（道士）第6095号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

伊予市長 中 村



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の件について、別紙のとおり回答いたします。

地域の道路整備要望

- ・ 住民の生命、財産を守る救急車、消防自動車が入れる道路整備。
- ・ 他の交通機関の無い地域の道路整備(1.5車線の整備)
- ・ 災害発生時に代替道路が利用できない地域の道路整備。
- ・ 過疎、高齢化の進んでいる地域に住んでいる住民が安心と安全を確保できる道路の早急な整備。
- ・ 地域の特産品を都市部へ早く輸送できる道路の整備。
- ・ 道路を安全に走行できるよう維持管理の徹底。

都市部の道路整備要望

- ・ 交通渋滞の起きている道路の対策。(バイパス道路整備)
- ・ 通学道路等歩行者の安全を守るための歩道整備。

②—1 地域の現状と抱える課題

愛媛県伊予市

○現状

市町村合併により、中山間地域を多く抱えることとなった。

山間部の道路には、幅員が狭隘ですれ違いにも苦慮する防護柵もない道路が多くある。

これらの地域では、限界集落化が進む中、車が唯一の交通手段であり、利用する生活道路の維持補修を交通量が少ないからといって放置すれば、益々取り残されることになってくる。

殆どが急斜面を切り開いた急勾配の切土法面の道路や谷や河川沿いの道路であり、災害時には迂回路確保が困難となり、復旧にも時間を要し集落が孤立する恐れも心配されている。

○課題

部分的に待避所を設置（1.5車線整備）するにも、正規格での工事ができないため補助事業対応ができない。現在は単独の維持工事に対応するしか方法が無い。

急峻な地形にバイパス等を計画するとなると、補助事業で対応するためには、トンネルや橋梁を組み入れた構造となるため、多くの費用がかかり、現在の経済状況・財政事情では早期解決にはいたらない。

②-2 地域の目指すべき将来像

愛媛県伊予市

自然環境の豊かな中山間地域が果たしてきた、又果たしている地球環境問題も視野にいれ、地域の特性が生かせる、道路特定財源の目的に沿った道路整備又、補助制度の創設を望む。

大都市の交通渋滞の解消や整備も大切なことであるが、地方道路の未整備箇所・未改良箇所の多さも改めて認識してもらい、今回の中期計画の中にも、地域の道路整備を織り込んでもらいたい。

地域でも都会の自動車利用者と同じように、揮発油税等道路特定財源を納めていることをお忘れなく。